

令和2年度 日本教育大学協会研究集会報告

令和2年度研究集会実行委員長

愛媛大学教育学部長 小助川 元太

開催期間 令和2年10月10日(土)～令和2年10月31日(土)

当番大学 愛媛大学

開催方式 Web開催

はじめに

令和2年度日本教育大学協会研究集会は、愛媛大学が当番大学として開催されましたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面での開催はせず、10月10日(土)から31日(土)の期間Web上で開催することになりました。ただし、Web開催を決定した時点では、全国的に感染が拡大している最中であり、Zoomのような同期型遠隔会議システムを学会や研究集会で導入する動きが現在ほど広まっていなかったこともあり、開会挨拶は文書のWeb掲載、文部科学省の招待講演についてもスライド資料の掲載とすることとし、例年全体会で行われていたパネルディスカッションは残念ながら中止ということにいたしました。

また、分科会も、春の段階で開催されていた学会や研究集会の方式を参考に、Web上での資料掲載と掲示板での質疑応答という方法を採用いたしました。Web大会ですので、情報交換会も中止いたしました。このような変則的な形の開催となったにも関わらず、とくに分科会には全国から28大学、91件の発表の申し込みがあり、従来と変わらず充実した会となりました。研究集会の概要は、以下のとおりです。

I 全体会

1 開会挨拶

開会にあたり、日本教育大学協会長の國分充氏より、コロナ禍というこれまでに経験のない状況に立ち向かい、新たな日常への試みを模索しつつ日々の教育研究活動を行っている各大学等の知見が共有され、今後の活動へと繋がることへの期待が述べられました。これに続き、当番大学を代表して、大橋裕一愛媛大学長より、急激に変化する社会の動きへの国立大学の対応が問われている中で、教員養成系大学・学部については、その高度化と、他大学との連携・集約に関する内容が検討課題となっていること、そうした動きの中で、地域の子どもたちを育成する教員や、教員を養成する教員養成系大学・学部の益々の貢献が期待されること、今回の研究集会で発表された研究成果が、これからの教員養成のさらなる高度化や教育現場での教育内容の一層の改善に資するものになることへの期待が述べられました。

さらに、本研究集会実行委員長の小助川元太と、来年度の当番大学である福岡教育大学長の飯田

慎司氏より挨拶がありました。

2 招待講演

招待講演では、文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長の齋藤潔氏による「教師の資質能力の向上 新型コロナウイルス感染症への対策」と題した講演が、スライド資料の掲示により行われました。

内容としては、「中央教育審議会中間まとめ」をもとに「令和の日本型学校教育の構築を目指して」と題して、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来に加え、今年度全世界に多大な影響を与え続けている新型コロナウイルスの感染拡大など、先行き不透明な「予測困難な時代」を生きる子どもたちを育てるために、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」との観点から、これまで日本型学校教育が果たしてきた、①学習機会と学力の保障、②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障、③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承していくこと、教職員定数、専門スタッフの拡充等の人的資源、ICT 環境や学校施設の整備等の物的資源を十分に供給・支援することが国に求められる役割であるということ、一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせて活かしていくことなどといった、国の方針が説明されました。また、新型コロナウイルス感染状況における、大学・学校現場に対するこれまでの国の対応や、教育現場における好事例の紹介なども行われました。

II 分科会

分科会は、発表者が作成した資料を Web 上に掲示し、それに対する質疑を掲示板にて行うというものでした。その際、口頭発表ができない分を補うために、例年 2 ページとしていた資料を 4 ページまで増やしても良いこととしました。掲示資料は、「学部段階での教員養成」「大学院段階での教員養成」「大学・学部と附属学校園との連携・協働」「へき地・小規模校教育」「教育委員会との連携・協働による現職教員の教育・研修」「自由課題」という6つのテーマ別に分け、さらに「自由課題」については、その内容によって大まかにA・B・C・Dという4つのグループに分け、それぞれ Web 上の9つの「会場」に掲示し、発表資料毎に掲示板を設置しました。掲示板での質疑応答については、それぞれの「会場」担当スタッフの管理のもと、10月10日(土)～10月16日(金)までの期間中に行い、質疑の内容については、開催期間が終わるまで公開することにしました。発表件数は91件で、各会場ともに充実した研究発表と質疑・応答が行われました。

おわりに

このたびは、例年とは異なる変則的な開催であったにもかかわらず、全国から多くの皆様にご参加いただき、当番大学の愛媛大学並びに研究集会実行委員一同、心より御礼申し上げます。また、会の準備、Web 公開期間内の運営等につきましては、スタッフ一同万全を期して臨みましたが、とくに今回は始め

での Web 開催ということもあり、至らぬ点も多々あったことと存じます。それでも無事に研究集会を開催できましたのは、ご参加いただいた皆様のご協力によるものです。次年度の研修集会は、福岡教育大学で開かれます。今後も、教員養成に関する教育研究の質的向上と発展を図る機会として、研究集会がますます有意義なものになっていくことを期待いたします。ありがとうございました。

令和2年度 日本教育大学協会研究集会 開催概要

(当番大学 愛媛大学)

【開催期間】

令和2年 10月 10日(土) ～ 令和2年 10月 31日(土)

【開催方式】

Web 開催(<http://ed.ehime-u.ac.jp/jaue2020>)

【開催内容】

<全体会>

1. 開会挨拶

- (1) 日本教育大学協会 会長 國分 充 東京学芸大学長
- (2) 日本教育大学協会研究集会 当番大学長 大橋 裕一 愛媛大学長
- (3) 日本教育大学協会研究集会 実行委員長 小助川元太 愛媛大学教育学部長
- (4) 日本教育大学協会研究集会 令和3年度当番大学代表 飯田 慎司 福岡教育大学長

2. 招待講演

テーマ：「教員の資質能力の向上 新型コロナウイルス感染症への対策」

講師：齋藤 潔(文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長)

<分科会(研究発表)>

1. 第1分科会 「学部段階での教員養成」
2. 第2分科会 「大学院段階での教員養成」
3. 第3分科会 「大学・学部と附属学校園との連携・協働」
4. 第4分科会 「へき地・小規模校教育」
5. 第5分科会 「教育委員会との連携・協働による現職教員の教育・研修」
6. 第6分科会A 「自由課題」
第6分科会B 「自由課題」
第6分科会C 「自由課題」
第6分科会D 「自由課題」

*開催期間中、Webにて発表資料を公開します。

令和2年 10月 10日(土)～令和2年 10月 16日(金)は、Web上で意見交換が可能です。
意見交換の内容についても、開催期間中、公開します。